

作業療法中級試験範囲一覧

第1分野	精神障害のリハビリテーションと作業療法	WHO障害構造の理解 作業療法の定義
第2分野	精神医療の枠組みと作業療法	精神障害者に関する法律と歴史的背景と現状の理解 精神医療施設の理解 精神障害者社会復帰施設と地域における支援システムの理解
第3分野	作業療法の治療理論	精神科作業療法の治療構造の理解 作業療法と関連のある理論と療法の理解
第4分野	作業療法の基礎技法	評価 作業療法計画の立案(目標の設定と手段の選択) 作業療法の実施 記録と報告
第5分野	作業療法の実際	統合失調症における作業療法の理解 躁鬱病における作業療法の理解 境界例における作業療法の理解 てんかんにおける作業療法の理解 アルコール疾患における作業療法の理解 薬物依存症における作業療法の理解 精神遅滞における作業療法の理解 老年期の精神障害における作業療法の理解 幼児・児童期の精神障害における作業療法の理解 青年期の障害における作業療法の理解 重複障害における作業療法の理解
第6分野	精神障害者の自立生活と作業療法	自立に向けた生活援助とは 自立生活の基礎づくりとしてのデイ・ケア 日常生活と健康管理 職業関連活動と就労をめぐる諸問題 仲間づくりと社会参加 自立に向けた社会資源の利用
第7分野	作業療法部門の運営と管理	設備(開設にあたっての施設基準) 診療報酬
第8分野	作業療法新規導入時(再導入含む)	入院患者様の情報収集 作業療法導入確認 作業療法指示箋作成と主治医からの指示受け(再導入時は再導入指示箋作成) 作業療法導入者についての検討(他部門) 作業療法経過記録・作業療法評価表・作業療法出席簿の作成 患者様へ作業療法導入のオリエンテーション 作業種目の検討
第9分野	作業療法準備	作業道具と材料の在庫確認 作業道具と材料の発注 作業道具と材料の管理
第10分野	作業療法評価	面接 観察 対人技能 作品評価 作業評価 集団評価
第11分野	作業療法計画の立案	問題点抽出 目標設定 作業分析 治療手段の選択
第12分野	作業療法実施	治療的人間関係(信頼関係の構築) 作業指導 再評価 治療計画の変更 作業療法実施経過の記録 作業療法実施経過の報告

第13分野	退院時療養計画書	退院時療養計画書作成 退院時療養計画書送信
第14分野	作業療法退院時要約	作業療法退院時要約作成 作業療法退院時要約を主治医へ提出 作業療法退院時要約原本を庶務管理課に提出 作業療法退院時要約管理
第15分野	転棟時の対応	作業療法指示の確認 病棟との検討 対象者への伝達 関係書類の調整
第16分野	作業療法指示内容変更時の対応	作業療法中止指示箋 作業療法長期欠席指示 作業療法再指示(継続) 病棟との検討 対象者への伝達 関係書類の調整
第17分野	チーム医療	対象者の情報提供と検討
第18分野	作業療法業務日誌	作業療法業務日誌作成 作業療法業務日誌回覧 作業療法業務日誌確認 作業療法業務日誌管理
第19分野	作業療法実施チャート	作業療法実施チャート作成 作業療法実施チャート送信 作業療法実施チャート確認 作業療法実施チャート管理
第20分野	作業療法月報	作業療法月報作成 作業療法月報回覧 作業療法月報確認 作業療法月報管理
第21分野	作業種目一覧表	作業種目一覧表作成 作業種目一覧表確認
第22分野	作業療法評価表	作業療法評価表作成 作業療法評価表管理
第23分野	作業療法経過記録	作業療法経過記録記載 作業療法総括作成 作業療法経過記録決裁を受ける 作業療法経過記録確認 作業療法経過記録管理
第24分野	作業療法実施状況一覧表	作業療法実施状況一覧表入力
第25分野	作業療法月間プログラム	作業療法月間プログラム作成 作業療法月間プログラム確認 作業療法月間プログラム決裁を受ける 作業療法月間プログラムに掲示印をもらう(庶務管理課より) 作業療法月間プログラム配布 作業療法月間プログラム管理
第26分野	事故対策	緊急時マニュアルの理解 リスクマネジメントマニュアルの理解 m-SHEL分析 事故報告書作成
第27分野	緊急時の対応	火災時の行動マニュアルの理解 地震時の行動マニュアルの理解 体調急変時の行動マニュアルの理解
第28分野	接遇技術	接遇マニュアルの理解 電話対応

	中級 第1分野 精神障害者のリハビリテーションと作業療法	
1	WHO障害構造の理解	
	解説	精神障害における障害構造は、機能障害、活動、参加が相互に関連し、精神障害者の障害を複雑にしている。ICIDH - 2は能力障害(Disability)を活動(Activity)、社会的不利(Handicap)を参加(Participation)に変更している。
	例題	ICIDH - 2を図式化しなさい。
	解答	Health Condition (健康状態、変調、病気) Impairment (機能障害) Activity (活動) Participation (参加) Contextual Factors (背景因子) 環境因子、個人的因子

2	作業療法の定義	
	解説	作業療法とは、直接病理に触れる部分もあるが、病理に触れるより生活の幅を広げる事で、結果的に生活全体に対する病理の比率を少なくすることが、作業療法の特性を生かした役割である事を認識することが必要である。それをふまえて、作業療法の定義とは、作業療法は、精神的疾患に関連する病理の部分に対して直接働きかける治療医学と相補し病気のために生かされていない対象者の健康な部分に働きかけ、低下している基本的な機能の回復と改善をはかり、生活に必要な新しい技術を学習する機会を提供し、社会資源の利用や環境を調整することによって、その個人の生活の質を高める援助をする。
	例題	作業療法の定義を挙げなさい。
	解答	作業療法は、精神的疾患に関連する病理の部分に対して直接働きかける治療医学と相補し病気のために生かされていない対象者の健康な部分に働きかけ、低下している基本的な機能の回復と改善をはかり、生活に必要な新しい技術を学習する機会を提供し、社会資源の利用や環境を調整することによって、その個人の生活の質を高める援助をする。

第2分野 精神医療の枠組みと作業療法		
3	精神障害者に関する法律と歴史的背景と現状の理解	
	解説	精神保健法は、「精神病者監護法」と「精神病院法」が廃止され1950年「精神衛生法」が制定された。その後、1987年に「精神保健法」が公布された。 精神衛生法から精神保健法への改正の柱として「精神障害者の人権擁護の推進」「社会復帰の促進」がある。精神保健法の目的は、「精神障害者などの医療および保護を行い、その社会復帰の促進ならびに発生の予防とその他国民の精神保健の保持および増進に努める事によって、精神障害者などの福祉の増進および国民の精神保健の向上を図ること」である
	例題	精神保健法の主な改正点を書け
	解答	任意入院の制度化、医療保護入院、応急入院の制度化など
4	精神医療施設の理解	
	解説	作業療法士が関与する精神医療施設の多くは、現時点では保険診療点数の請求ができる病院とデイ・ケアである。
	例題	精神医療施設を述べよ
	解答	病院、診療所、精神保健法で医療型施設とされたデイ・ケアなどがある。
5	精神障害者社会復帰施設と地域における支援システムの理解	
	解説	精神障害者の社会復帰施設として、精神障害者生活訓練施設と精神障害者授産施設がある。精神障害者生活訓練施設には、「精神障害者援護寮」「精神障害者福祉ホーム」がある。精神障害者援護寮は、回復途上にある精神障害者が一定期間(2年以内を原則、1年以内の延長可)利用できる。また、精神障害者福祉ホームは、一定の自活能力のある精神障害者で住宅の確保が困難な者が一定期間(2年以内を原則、1年の延長可)利用でき、必要な指導等を受け社会参加を進めることを目的とするものである。
	例題	精神障害者福祉ホームとは何か
	解答	一定程度の自活能力のある精神障害者(おおむね20人)で家庭環境、住宅事情等の理由により住宅の確保が困難な者が、一定期間利用できる施設。

第3分野 作業療法の治療理論		
6	精神科 作業療法の治療構造の理解	
解説	作業療法は、患者若しくは援助を必要とする者と治療者若しくは援助者の治療関係が、作品や道具、素材など、物や作業活動を媒体として成り立っている。作業療法を実施する上で、治療構造を理解しアプローチしていく必要がある。	
例題	治療要因と要因の持つ主治療要素を挙げなさい。	
解答	患者：障害・能力、主体性、主観 治療者：知識・技術、パーソナリティ もの・作業活動：作品、道具、素材、作業行為の特性 集団：他者の情報、模倣修正、集団力動 場：物理的構造、場のもつ意味	

7	作業療法と関連のある理論と療法の理解	
解説	精神障害者に対する治療理論として、精神分析モデル・発達のモデル・行動理論に基づくアプローチ・認知理論・人間作業モデルなどがあげられる。日本において作業療法に影響を与えたモデルとして森田療法があげられる。森田療法の特徴は以下の通りである。 入院治療の中心的意味として、臥褥という特有な刺激遮断の状況が設定できること、家庭的治療的雰囲気をもつ新しい治療集団への参加により、有利な刺激が得られる事、恐怖突入の契機が得やすいこと、他者との関わりを通じた自己洞察が得られやすいことである。	
例題	森田療法とは何か述べなさい。	
解答	1920年頃、森田正馬によって創始された日本独特の精神療法である。これは、神経質に対する療法である。森田療法は作業が治療的に大きな役割を果たしている。その中には催眠術、説得療法、臥褥療法、正規生活法などがある。 具体的技法は、森田が「安静療法と訓練療法とが本症の根本療法である」と述べたように4期から成り立っている。第一期は絶対臥褥期、第二期は軽作業期、第三期は重作業、第四期は生活訓練期で40日の入院治療が行われる。	

	第4分野 作業療法の基礎技法	
8	評価	
	解説	評価とは、作業療法士が作業療法の見方に立って、対象者へ提供する作業療法の具体的な適応の骨子を見極める過程であり、結果としての見解を得ることである。対象者がどのような環境下で生活上の役割、経験、技能、生活設計などを持ってきたのかの把握、つまり作業的役割の理解や健康な特性の把握が必要である。
	例題	作業療法での評価内容を書きなさい。
	解答	認知機能 対人関係 集団適応 作業・職業能力 コミュニケーション 身体機能 問題解決能力 日常生活技能 問題行動 環境 生活設計 その他

9	作業療法計画の立案(目標の設定と手段の選択)	
	解説	作業療法計画は、評価結果から導かれる具体的なで個別的な治療の設計図である。作業療法の主たる治療手段は作業であり、作業が治療手段となるには作業分析の理論と技術が必要である。作業を行う人の身体に何が起こり、どのような機能が要求されるのか、心にどのような変化がみられるのか、それはその作業のどの要素によるものか、などを対象に合わせて観る力が必要である。
	例題	作業分析とは何か書きなさい。
	解答	作業そのものの特性と人と作業の関わりを、社会・文化、生理、心理、人の生活といった視点から分析し、統合する。

10	作業療法の実施	
	解説	作業療法が導入されると、作業療法士は対象者に対し、観察・面接評価を実施し、その結果問題点の抽出、目標設定、治療手段の選択を行い、治療計画を立案する。その治療計画に沿って治療を開始する。その後、観察・面接・作業・作品・集団評価などで再評価していく。経過が順調であれば、次の段階の目標への治療計画を立案する。順調にゆかない場合は、経過を再検討して、計画の不備を修正する。あるいは、評価そのものをし直すことから計画する必要がある。
	例題	作業療法過程を述べなさい。
	解答	作業療法導入 評価過程(記述・照合・解釈・フィードバック) 治療計画立案過程(問題選択、目標設定、治療構造の構築) 治療実施過程(治療介入、再評価) 終了

11	記録と報告	
	解説	記録の目的として 作業療法の治療・評価の計画立案の資料として役立てる。 作業療法に関する情報提供の資料として役立てる。 作業療法部門の管理運営の資料に役立てる。 作業療法の教育・研究の資料として役立てる。 作業療法士の法的保護の資料として役立てる。である。報告書の書き方は、 誰が読むかを考えて書くこと。 手短に、要点を逃さずに書く。 必要な時期に合せて書く。 作業療法での変化内容、焦点、問題点、方針が伝達されていること。である。
	例題	記録と報告の定義を述べなさい。
	解答	記録とは、法的に責任のある行為実践の証拠として、保管を目的に書かれる事実や事件の記述である。報告とは、記録に基づく結果の公式なまとめであり、治療的・管理的な目的に沿って職場内や職員間の協同、検討、コミュニケーション等を図る資料として役立てる文書である。

第5分野 作業療法の実践	
12	統合失調症における作業療法の理解
解説	統合失調症において、より重要な問題は 精神・認知機能の問題 身体機能面の問題 精神力動的の問題 作業能力面の問題 生活能力面の問題 対人関係能力面の問題 である。これらの6つの問題に対してのアプローチを基本的な訓練と呼ぶ。 精神・認知機能の訓練 : 模写、書き取り、各種手芸、木工、頭を使ったレクリエーション 身体機能の訓練 : 体操、ストレッチ、散歩、ROM訓練、体を使ったレク、スポーツ 精神力動的の問題 : 面接、日記、読書、自由画などの創造的な作品作りなど 作業能力の訓練 : 各種作業(単純作業、手作業、重労働作業など)、職業前作業など 生活能力の訓練 : ADL訓練、家事全般、買物、金銭管理、公共機関の利用、外出など 対人関係能力の訓練 : 茶話会、家族面談、集団で行うスポーツやレクリエーションなど
例題	統合失調症に対する作業療法プログラムにて基本的な訓練を6つ述べなさい。
解答	精神・認知機能の訓練 身体機能の訓練 精神力動的訓練 作業能力の訓練 生活能力の訓練 対人関係能力の訓練
13	躁鬱病における作業療法の理解
解説	作業療法における治療目標は、それまで対象者が生活していた社会に戻る事に重点がおかれる。作業療法では、ゆとりのある生活様式や趣味を持つ事、あるいは家族とのつながりの回復を目指すことになる。しかし、全てに自信を失い自己評価は著しく低下している。また、失ってしまったものへのしがみつきがとても強く、思うようにやれない自分へのもどかしさがあり、いっそう自尊心を傷つけてしまう。このような心性を考慮したうえで、治療開始時は一般に、これまで経験がない活動から導入する事が多い。
例題	うつ病相期の作業療法開始時の留意点を述べなさい。
解答	一般に、これまで経験がない活動から導入したほうが良い。しかも、単純で、あまり持続力、持久力を要しないで完成しうる作品から取り掛かせることが良い。
14	境界例における作業療法の理解
解説	治療の目標として 外界に噴出している体験をまず治療構造の中に抱える 対象者がそれを自己の精神内界に抱えられるように それを言葉で表現できるように そこから自己決定していけるようにして、しだいに心の壁づくりをしていくことで、外に噴出しなくなる状態にしていく。 無意識衝動に対応するには、活動や行動制限が出来る作業療法の活用が治療技法になる。
例題	境界例の特徴を述べなさい。
解答	特有の人格構造を持つ。人格障害に根ざした対人関係の持ち方はかなりいびつなので、治療者や周囲の人は振り回される。
15	てんかんにおける作業療法の理解
解説	てんかんの分類は、強直間代発作(大発作)、欠伸発作(小発作)、ジャクソン発作、ミオクロニー発作、複雑部分発作、無動発作に分類される。 作業療法開始時面接は、発作の状態を情報収集し、環境設定や作業種目を決定する上で必須項目である。作業種目決定に考慮する項目としては、発作による転倒や危険物の有無を考える必要がある。作業療法実施時は、対象者の気分変動や情緒の不安定にも注意するが、その原因は何かを調べて対応していく事も重要である。
例題	てんかんのリスク管理について述べなさい。
解答	発作のタイプによっては作業活動上非常に重要な事項である。失神・脱力・転等々の発作をもつものには最大の注意が必要である。

16	アルコール疾患における作業療法の理解	
	解説	離脱症状として、振戦、全身けいれん発作、不眠、発熱、発汗などの身体症状と、小動物の幻視や上機嫌と苦悶が混ざり合った捨鉢諧謔などの精神症状がある。 離脱症状から回復した後は、体力が低下し疲れやすく、動作緩慢で、周囲に無関心となり、集中力の低下が見られる。 作業療法の目的は、基礎体力および持続的な作業体力の改善、状況に応じた距離のある対人関係の維持と集団課題遂行とを両立する体験、現実的な自己点検機能の獲得 ストレスや飲酒する要因への気付き、新たな対処技能の獲得、アルコールが身体にあたえる影響の正しい理解、である。
	例題	アルコールの関連問題を述べなさい。
	解答	身体障害(肝臓障害をはじめ) 心理的障害(他者への依存やストレス耐性の低さ等) 社会的経済的障害(家庭の崩壊、職業問題等)

17	薬物依存症における作業療法の理解	
	解説	薬物依存症の作業療法の過程は 導入期:偽適応段階、反発段階、不安定段階 学習期:内省段階、学習段階、反発段階 行動修正期と推移する。作業種目の内容はアルコール依存症の作業療法と大差は無い。
	例題	薬物依存症の作業療法目標にはどのようなものが考えられるか述べなさい。
	解答	心身の強化・鍛錬、体力の回復・焦燥感の発散・集中力持久力の回復・意欲減退兆候の改善など

18	精神遅滞における作業療法の理解	
	解説	特徴として 認知の障害 学習の障害 感覚の障害 運動の障害 コミュニケーションの障害 対人関係が幼稚 情緒の障害 不安になりやすいがある。 情報収集は、ADL、健康管理、趣味、興味などがひつようである。作業種目は 作業工程が少ないもの(単純なもの) 道具の種類が少ないもの 興味を示すもの 役割分担が明確なもの 指導方法が分かりやすいものが良い。 また、多量飲水、要求やストレスをコントロールできない事には行動療法的対応が必要。
	例題	乳幼児期・児童期と青年前期・青年後期と成人期の適応行動を述べなさい。
	解答	乳幼児期:感覚・運動機能の発達、意志の伝達技能、身辺処理機能、社会性 児童期・青年前期:日常生活の活動における基礎的な学業技能の応用、社会的技能 青年後期・成人期:職業的及び社会的責任とその遂行

19	老年期の精神障害における作業療法の理解	
	解説	痴呆の症状として記名力低下、失見当識、自発性低下、作業効率の低下、人格の変化がある。目的は、機能回復や社会復帰というよりも、残存機能を維持し日常生活への適応を高めていくことである。 作業療法時に発生しやすい問題行動として 離院 異食 他者への粗暴な行動、不潔な行動 収集癖がある。
	例題	痴呆に対する作業療法のガイドラインを述べなさい。
	解答	シンプルであること 集中力を持続できる時間内(20～30分)でできること 上手いいかないときは気分転換を図ること スタッフは柔軟性を持ってあたること 活動できる限り大人のレベルで行い、病気の進行にしたがって子供のものをを用いる

20	幼児・児童期の精神障害における作業療法の理解	
	解説	入院時にみられやすい主訴、症状、問題行動 身体面：疼痛、チック、発熱、夜尿、嘔吐、脱毛、やせ、歩行障害、頻尿、視力低下など 行動面：不登校、家庭内暴力、不眠、拒食、家出、寡黙、学業不振、万引きなど 精神面：強迫症状、不安、焦燥、自殺念慮など 児童期に多くみられるものとして、常同行動、注意欠陥多動症候群、情緒障害児、自閉症不登校、摂食障害、多動症があげられる。
	例題	自閉症の特徴を述べなさい。
	解答	自閉症の特徴は、自閉、孤独、状況の恒常的保持、パニック時の自傷行為などである。
21	青年期の障害における作業療法の理解	
	解説	思春期とは、一般に児童期以降の発達に伴う第二性徴と性的発動という特徴を持つ時期である。自我に目覚め、意識する事によって現実との矛盾に気付き、性的欲求の発動に伴う心の動揺から反抗的態度や現実逃避などがみられる。統合失調症や思春期やせ症など様々な精神障害が発現する時期でもある。
	例題	思春期の作業療法の対応を述べなさい。
	解答	思春期には、第二性徴が現れ、性的同一性を獲得することが発達課題である。
22	重複障害における作業療法の理解	
	解説	疾患類別的な重複・合併であるばかりではなく、疾患等によって生じた各種の障害要素の重複と相互影響によって、生活自立の障害が重度化・深刻化することの問題性が大きく、対応困難であると言われている。 重複障害では、身体的障害がADLに支障をきたしていることへの直接的な対処が求められるが、身体障害をとりかかりとした生活行動の獲得が、結果として目に見えない精神障害の安定を図ることになるように実施していかなければならない。
	例題	重複障害とは何か述べなさい。
	解答	「心疾患と呼吸不全を伴う発達障害」「糖尿病で下肢切断と脳梗塞を伴う高齢患者」等と分類・表記される。

6分野 精神障害者の自立生活と作業療法	
23	自立に向けた生活援助とは
解説	何か出来るようになりたい等といった現実に向かう姿勢と努力を認め動機付けを図る。自立は、無数の試行錯誤と挫折の中から、それを乗り越え獲得される。以上によって獲得された自立感は、仲間、援助者の社会的承認によって強化される。
例題	自立のプロセスを書きなさい。
解答	内発的、外発的動機付け 経験の蓄積と内面化 社会的承認による強化

24	自立生活の基礎づくりとしてのデイ・ケア
解説	デイ・ケアにおける治療形態は集団による活動が多い。集団内の問題解決過程を通し、成員間の一体感や相互理解を経験する場である。スタッフは極力補助的な立場を取り、集団の発達、成熟を助けることとなる。治療を受ける、してもらう治療から、自主的な主体性が求められる場面への転換である。
例題	デイ・ケアの機能を述べなさい。
解答	地域生活を始めるとなると刺激の多い、より複雑、多様な人間関係と幅広い生活空間の中で生活することになる。現実の社会とクライアントの生きる世界のギャップを埋める場が、模擬社会であるデイ・ケアと考えられる。 障害の受容・疾病の自己管理・障害の改善・社会性の育成である。

25	日常生活と健康管理
解説	日常生活技能の留意点 スタッフや対象者が「できる」と思っているにもかかわらず実際には「できない」ことがあるため、一人で実際にやってみる機会をつくる。 スタッフが先回りして代わりにしてしまったり、強要、躰とならないように注意する。 活動を分析し、必要に応じて分割したり統合したりしながら活用する。 金銭管理は優先させるもの、我慢するものなどをそれぞれの人に合った援助が必要 SST(日常生活技能訓練)によって生活の破綻や再発防止を図る。
例題	日常生活に必要な項目を挙げなさい。
解答	個人衛生(整容、更衣、入浴) 生活の自己管理(生活のリズム、服薬管理、金銭管理、火の始末など) 家事(掃除、洗濯、生理整頓、食事) 対人関係 社会資源の利用(公的手続きや公共機関利用、交通機関の利用や買物)

26	職業関連活動と就労をめぐる諸問題
解説	一般就労は企業と雇用者との直接的雇用関係で、就労場面でスタッフが関与することはない。保護就労は精神保健法の授産施設や共同作業所など保護的環境のもとで就労する。また、対象者にとっては、自らの居場所、憩いの場としても機能している。
例題	保護就労を説明しなさい。
解答	個別保護就労は、病歴があることを企業が承知して、理解した上での就労の為、通院日の配慮、職務の内容、労働時間の変更が可能となり、問題があるとき企業側と相談に応じられる。集団保護就労は、患者が複数で働く場合をいう。いずれの場合も一般就労へのステップとしたり、能力の範囲内で働ける利点がある。

27	仲間づくりと社会参加
解説	クライアントの多くは、仲間体験が少なく孤立しがちである。したがって、同じ境遇にある相手の困っていることが身近に感じられて、困っている事を一緒に考えたり、一緒に行動したりする。自らも仲間のやっていることに勇気づけられたり、励まされたりするからである。
例題	仲間集団が果たす役割を述べなさい。
解答	仲間相互の中で、より身近なモデルを探し出し、それに同一化しようとしている。 仲間意識による活動そのものが、生活の「ささえ」と「安心感」を与えている。 仲間を通じて人間関係の中で相互期待、欲求、妥協、思いやり、集団での規律や規範を学ぶ機会であることを無意識的に感じている。

28	自立に向けた社会資源の利用	
	解説	その基本は「保護の補足性」といわれ、生活に困窮した人が利用しうる本人や家族の資産、能力または制度などを活用しても、決められている基準に満たない場合に、その不足分を補うというものである。生活扶助、住宅扶助、医療扶助、出産扶助、生業扶助、葬祭扶助から成り立っている。
	例題	生活保護制度とは何か述べなさい。
	解答	日本国憲法で第25条に規定する理念に基づき国が生活に困窮するすべての国民に対しその困窮の程度に応じ必要な保護を行いその最低限度の生活を保障するとともにその自立を助長すること

	7分野 作業療法部門の運営と管理	
29	設備(開設にあたっての施設基準)	
	解説	施設基準 作業療法士は専従として最低1名が必要である。 患者数は、作業療法士1人に対して、1日75人を標準とする。 作業療法を行う為にふさわしい専用の施設を有しており、当該専用の施設の広さは、作業療法士1人に対して7.5㎡を基準とする。 当該療法を行う為に必要な誠意要の器械。器具を有している。
	例題	精神科作業療法の施設基準を書きなさい。
	解答	作業療法士は専従として最低1名が必要である。 患者数は、作業療法士1人に対して、1日75人を標準とする。 作業療法を行う為にふさわしい専用の施設を有しており、当該専用の施設の広さは、作業療法士1人に対して7.5㎡を基準とする。 当該療法を行う為に必要な誠意要の器械。器具を有している。

30	診療報酬	
	解説	1人の作業療法士は、1人以上の作業療法補助とともに当該療法を実施し、この場合、1日あたりの取り扱い患者数は、およそ25人を1単位として行うものであり、1人の作業療法士の取り扱い患者数は1日75人を標準とする。 当該療法に要する消耗材料及び作業衣などについては、当該保険医療機関の負担となる。
	例題	精神科作業療法の診療報酬を挙げなさい。
	解答	患者1人1日2時間実施し、220点である。

	8分野 作業療法新規導入時(再導入含む)	
31	入院患者様の情報収集	
	解説	作業療法導入前の情報収集として、疾患名、現病歴、合併症の有無、学歴、家族歴、職歴などを確認しておく必要がある。また、作業療法導入前に病棟スタッフと検討することで適切なアプローチを提供していく。
	例題	作業療法導入前の情報として何が必要か。
	解答	現病歴、注意・禁忌事項、現在の身体・精神状態を確認し、作業療法導入が可能かどうか病棟スタッフとの検討をする。
32	作業療法導入確認	
	解説	病棟からの作業療法導入の検討がある場合、主治医指示願い届けにより、患者様の状態を報告し主治医より作業療法の検討・指示をいただく。
	例題	作業療法導入する際、必要な書類は何か。
	解答	作業療法指示箋、主治医指示願い届け
33	作業療法指示箋作成と主治医からの指示受け(再導入時は再導入指示箋作成)	
	解説	作業療法導入(再導入)は医師からの指示により行われるものである。作業療法導入(再導入)可能な患者様の情報は、病棟、医師、作業療法士から提供され導入の検討が行われる。
	例題	作業療法導入の手順はどのような流れか。
	解答	病棟スタッフや医師から作業療法導入可能な患者様の情報を得、患者様の情報収集、作業療法指示箋の作成、主治医の指示を経て作業療法導入となる。
34	作業療法導入者についての検討(他部門)	
	解説	作業療法導入時の検討は、治療の方向性を決定するために重要である為、作業療法開始前に行っておく。
	例題	作業療法導入者(新規・再導入)について、病棟との検討事項は何か。
	解答	作業グループの検討、作業療法治療目標、注意・禁忌事項の確認と検討。
35	作業療法経過記録・作業療法評価表・作業療法出席簿の作成	
	解説	作業療法関連書類の作成は、導入後すぐに作成することで、作成忘れなど作業療法関連書類の未作成を防止する。
	例題	作業療法導入により準備しなければならない書類は何か。
	解答	作業療法経過記録、作業療法評価表、作業療法出席簿
36	患者様へ作業療法導入のオリエンテーション	
	解説	作業療法を始めて実施する患者様へのオリエンテーションは重要であり、治療意識を持つことや不安を軽減する為に必要である。
	例題	新規作業療法導入者へのオリエンテーションにおいて、説明することは何か。
	解答	オリエンテーション用紙を用いて、作業療法の目的、作業参加予定、作業種目、注意事項を説明する。
37	作業種目の検討	
	解説	導入後すぐに難しい課題から取り組むことは、作業意欲を低下させてしまい、自信の喪失にも繋がる。単純で比較的短時間で完成できるものから提供していく。
	例題	新規作業療法導入者の作業種目はどのようにして決めるか。
	解答	患者様自身が興味を示すものから提供していく。最初は作業時間内に完成できる作業から提供し、自信や意欲がもてるようにしていく。

	9分野 作業療法準備	
38	作業道具と材料の在庫確認	
	解説	在庫をきちんと確認し、コストを考えて必要なものを発注する。発注伝票には物品の個数・単価などを記載して発注する。普段から、作業に必要な物品の個数を把握し、作業療法実施時に不足しないようにしておくことが必要である。
	例題	作業材料が不足している場合(または不足しそうな場合)はどうするか。
	解答	発注伝票に必要な物品の個数・単価などを記載し発注する。
39	作業道具と材料の発注	
	解説	作業療法に必要な道具や材料の発注の際には、発注伝票に必要な物品名、個数、単価などを記入し、主任の確認を得て診療課長へ提出し、決裁をもらう。また、発注した物品を発注ノートに記載することで、不足物品の発注状況が分かる。
	例題	作業道具と材料の発注の手順を記載せよ。
	解答	発注伝票に物品名、個数、単価などを記載し、発注した物品を発注ノートに記載する。主任の確認を得て診療課長へ提出し、決済をもらう。
40	作業道具と材料の管理	
	解説	発注した物品が届いたら発注ノートを見て、発注物品の個数、色を確認する。発注した物品であるかを発注ノートで確認することにより、発注した物品が確実にとどいたのか確認できる。
	例題	発注した物品が納入されたとき何を確認するのか。
	解答	発注した物品であるかどうか、個数・色などは合っているかを確認する。

第10分野 作業療法評価		
41	面接	
	解説	面接時に必要な技術は次の通りである。 観察;言語、非言語を観察する。外観、表情、視線、姿勢、態度などを注意する。 傾聴;相手の表現に積極的に耳を傾けること、聞き入る事。 質問;目的に沿った話の流れをつくる。 応答;相手に面接者の理解を伝えることが重要。 受容;相手の話を受け入れ承認する。相手を人格的に無条件に尊重し承認することである。 共感;話を相手の見方に従い、あたかも相手の立場になったように理解する事。 真実の自己;面接過程での自己を、面接者は偽らずあるがままに受け入れ把握すること。
	例題	面接者の基礎技術を述べなさい。
	解答	観察、傾聴、質問、応答、受容、共感、真実の自己
42	観察	
	解説	観察の分類は次の通りである。 自然観察;対象への人為的統制を加えない観察の仕方。参加観察と非参加観察がある。 非参加観察;自然科学における事実確認の方法。客観的で対象と観察者との相互交渉を含まない観察である。 参加観察;心理学や社会科学の領域における事実確認の方法。対人が人である限り観察者が対象者との相互交渉を持ち、状況に参加する観察である。 実験的観察;対象に人為的統制を加え、観察手段を標準化して客観性を保持して行われる観察である。
	例題	観察の分類を述べなさい。
	解答	自然観察、非参加観察、参加観察、実験的観察
43	対人技能	
	解説	対人技能には、適切な接し方、友人作り、意思伝達、他人の行動の解釈などがある。 対人関係を通して、他人の言動を解釈したり、自分の言動に対する他者からのフィードバックを得る事から、対人技能を学んでいくものである。
	例題	対人技能にはどのようなものがあるか述べなさい。
	解答	適切な接し方、友人作り、意思伝達、他人の行動の解釈など
44	作品評価	
	解説	作業療法士は、作品評価のために作業の一般的方法、こつ、時間、作業強度、作業の凝集性、自由度や創造性、対人関係、認知・技能・問題解決の水準、必要な材料や設備などを熟知することが望ましい。 作品評価では、課題に対する反応、作品に対する反応、用具や素材に対する反応、制作順序に対する反応、指示の理解、緊張場面での不安の程度や解消の仕方を見る。
	例題	作品評価では、どのような反応をみるか述べなさい。
	解答	課題に対する反応、作品に対する反応、用具や素材に対する反応、製作順序に対する反応、評価者に対する反応、指示の理解、緊張場面での不安の程度や解消の仕方。
45	作業評価	
	解説	作業評価では、認知機能、作業・職業能力、身体機能、問題解決能力、問題行動、コミュニケーションなどを評価する。 課題を提供後は、最初の指示以外の言語交流は入れず、つくり方を観察するのが良い。
	例題	作業評価ではどのような点を評価するか述べなさい。
	解答	認知機能、作業・職業能力、身体機能、問題解決能力、問題行動、コミュニケーションなど
46	集団評価	
	解説	集団評価は、作業療法の実施形態を個別または集団で行うのかの判断に不可欠であるし、対象者の集団適応、社会適応の水準の把握および具体的な予測に役立てられる。
	例題	ソシオメリーとはどのような評価であるか述べなさい。
	解答	集団成員間にみられる種々の牽引と反発の関係を明らかにすることで、集団構造を捉える評価である。

第11分野 作業療法計画の立案		
47	問題点抽出	
	解説	問題点はケースの全体像を捉える為にも、作業療法場面での評価(作業遂行能力・対人関係面等)はもちろんであるが、他部門からの情報収集や面接内容、評価スケールを用いた評価等、様々な視点から評価する事が必要である。問題点抽出のために必要なものは、情報収集、観察評価、作業評価、行動評価、面接評価、テストの利用、職業前評価などである。
	例題	作業療法で扱える問題点を抽出し、治療計画立案していくこととなるが、問題点抽出の為に必要なものは何か挙げなさい。
	解答	情報収集、観察評価、作業評価、行動評価、面接評価、テストの利用、職業前評価など

48	目標設定	
	解説	ケースの症状・経過・障害の予後予測を考慮していく事が必要であり、ケースのニーズ・生活歴・作業能力からリハビリテーションの具体的な可能性と段階付けを知る。医療チーム全体の目標と理論枠から、他部門が補完する内容と全体の方向を知る。これらを考慮し目標を設定していく。
	例題	目標設定に必要な情報を述べなさい。
	解答	病状や既往歴、ケースのニーズ、生活歴、作業能力、他部門からの情報、主治医からの治療方針など

49	作業分析	
	解説	表現の自由度、独創性：下絵や作品の紙の種類、色の選択などに独自性が表現されるか 作業活動によって誘発されやすい感情：攻撃性を要するのか 作業活動に伴う自己愛充足度の機会：自分の作品ができるという満足感など 作業活動の難易度：手順理解など 作業活動の結果と予測性：きり絵は終わったところと残っているところがはっきりしており予測しやすい 作業活動の結果の種類と再生産性：紙を用いた作品は再生産性は高い 作業活動および作品の社会的・文化的意味：きり絵はカッターを使える年齢であれば男女共に楽しめる。芸術作品に入る。
	例題	作業活動・作品ではどのような点を分析するか述べなさい。
	解答	表現の自由度、独創性 作業活動によって誘発されやすい感情 作業活動に伴う自己愛充足度の機会 作業活動の難易度 作業活動の結果と予測性 作業活動の結果の種類と再生産性 作業活動および作品の社会的・文化的意味

50	治療手段の選択	
	解説	作業分析にて、作業の特性を把握した上で、個々人の目標と照らし合わせながら、決定していく事が必要である。
	例題	作業種目の決定の仕方を述べなさい。
	解答	作業療法士が把握する作業の治療的要素と治療目標とケースの受け入れ態勢とを検討して作業種目が決定される。

第12分野 作業療法実施		
51	治療的人間関係(信頼関係の構築)	
	解説	日頃より相手の話を傾聴し、今何を問題とし、何が必要なのかを、他の情報も参考に評価していく技術が必要となる。
	例題	治療的人間関係構築の為に何が必要か。
	解答	説明と合意を大切に、患者様自身が治療を意識し、安心して治療に専念できるような、互いの信頼関係作りが必要となる。

52	作業指導	
	解説	出来る事は自分で行って頂き、必要に応じて必要な部分にだけ援助をする。患者様のできる能力を活かし、またできるものの範囲を広げていけるような援助が必要となる。
	例題	作業指導する際の留意点は何か。
	解答	手をかけ過ぎず、必要な部分だけを援助する。 個々人の目標を把握した上で、援助していく。 患者様の状態によって臨機応変に対応できるようにする。 事故防止の為に、能力にあった作業道具(ハサミ等)を提供していく。

53	再評価	
	解説	最低約3ヶ月毎に評価を実施するなど、定期的に評価は実施する。また、病状の変化や目標の達成の有無によって、今必要とする作業療法アプローチの提供を行えるよう治療計画の見直しを行う。
	例題	再評価はどのような時に行うか。
	解答	「最低3ヵ月ごとに行う」「病状改善時」「病状不安定時」「目標達成時」

54	治療計画の変更	
	解説	作業療法は主治医の指示の元で実施している為、主治医の治療方針が変更した際には、作業療法での治療方針を見直す事が必要となる。また、病状の変化に伴い治療計画を臨機応変に見直し実施していく事が必要となる。
	例題	治療計画の変更を要するのはどのような時か。
	解答	「病状改善に伴い、ステップアップした治療計画が必要となった時」「病状不安定に伴い、今までの治療計画では対応できなくなった時」「主治医より治療方針の変更があった時」

55	作業療法実施経過の記録	
	解説	実施経過は、個々人の作業での状況を経過として記載する為、日時、作業内容、作業状態、特記事項を明確に記す事が必要である。また、評価手段の一つとして用いている。
	例題	作業療法実施経過には何を記載するか。
	解答	日付、作業療法実施時間、作業種目(内容)、評価基準に基づいた作業状態の記録、特記事項、記録者名など

56	作業療法実施経過の報告	
	解説	毎日の作業療法の状況を記し、月末には1ヶ月の総括を記載し、主治医に提出する。 その後、各病棟カルテに情報提供とし綴じる。 作業療法終了時、その都度変化が見られた患者様の報告を病棟にする事で、お互いが患者様の状況を把握している状態にしておく。 1週間の個々人の作業経過、作業療法での目標、スタッフの援助方法を踏まえ報告する。
	例題	作業療法実施経過についての報告手段にはどのようなものがあるか。
	解答	「作業療法経過記録」 「随時、口頭での報告」 「チームカンファレンス」 「診療課症例検討会」 「青箋」

第13分野 退院時療養計画書		
57	退院時療養計画書作成	
	解説	退院が近い患者様に対して計画書が作成されており、患者様の退院後に必要な援助が行われるために必要である。作業療法場面より、退院後に必要となる援助があれば、簡潔に分かり易いように記載する。
	例題	退院時療養計画書の作成手順を記載しなさい。
	解答	パソコンの回覧で病棟からの退院時療養計画書の送付の有無を確認する。 作業療法士の記載項目にのみ必要事項を記載する。

58	退院時療養計画書送信	
	解説	回覧確認のボタンのクリックだけで送信は終了する。また、回覧のコメントの欄へ記載することでもよい場合がある。
	例題	退院時療養計画書へ記載後どのように送り先へ送信するか。
	解答	パソコンで回覧されてくるため、計画書記入後回覧確認のボタンをクリックする。

59	第14分野 作業療法退院時要約	
	作業療法退院時要約作成	
	解説	作業療法退院時要約は退院した当日に作成することになっている。しかし、退院日が作業療法のない曜日(土・日曜日)であれば、出勤後の作成となる。
	例題	作業療法退院時要約はいつまでに作成しなければならないか。
	解答	原則として退院したその日に作成若しくは翌日に作成し、主治医へ提出する。
60	作業療法退院時要約を主治医へ提出	
	解説	作業療法指示経過、作業療法経過、問題点、目標、治療計画、作業療法治療経過の記載は、簡潔かつ明確に記載する必要がある。提出書類が返ってきたら、主治医確認印を必ず確認する。
	例題	作業療法退院時要約を主治医へ提出する際、確認することは何か。
	解答	作業療法指示経過、作業療法経過、問題点、目標、治療計画、作業療法治療経過の記載に誤りがないか、提出先(医師)はよいかを確認して提出する。
61	作業療法退院時要約原本を庶務管理課に提出	
	解説	退院時要約は、外来受診時の情報提供としても必要である為、作成し主治医より確認して頂いた後は、速やかに庶務管理課へ提出する。
	例題	作業療法退院時要約原本を庶務管理課に提出するのはなぜか。
	解答	退院者のカルテは庶務管理課で保管しており、庶務管理課職員が退院時要約をコピーし原本は退院カルテに、コピーは外来カルテに綴る作業をしているためである。
62	作業療法退院時要約管理	
	解説	退院時要約の原本はカルテへつづられる為、記録として残しておく必要がある。また、ネットワークにて管理する事で、常に確認出来るようにしている。
	例題	作業療法退院時要約作成後の管理はどうするか。
	解答	作業療法退院時要約はネットワークの中の作業療法のフォルダー内で管理する。

第15分野 転棟時の対応		
63	作業療法指示の確認	
	解説	転棟の理由により、作業療法への参加や治療方針、グループの変更が生じる為、主治医への確認が必要となる。
	例題	作業療法導入の患者様が転棟した場合どのようなことが必要か。
	解答	主治医に作業療法の継続の可否、対応を確認する。
64	病棟との検討	
	解説	病状の状態を把握し、患者様の状態にあったグループで参加していただく為に必要である。
	例題	患者様の転棟により病棟と何を検討しなければならないか。
	解答	作業グループの変更が必要かどうか。
65	対象者への伝達	
	解説	患者様によっては、特に変更に対してのストレスが強く混乱を引き起こす可能性が高い為、
	例題	対象者への伝達はどのように必要か。
	解答	作業グループ変更がある場合、患者様の状態を把握した上で、当日伝えるか、前もって伝えるか他部門とも相談しながら検討し、連絡するようにする。
66	関係書類の調整	
	解説	出席簿の名前の移動は、参加者人数の把握に重要である。 チャートの名前の移動は、診療報酬請求を間違いなくするために重要である。
	例題	作業グループ変更の際、どのような書類の変更が必要か。
	解答	作業療法出席簿、作業療法チャートの名前の移動が必要である。

第16分野 作業療法指示内容変更時の対応	
67	作業療法中止指示箋
解説	作業療法中止指示箋は患者様の状態をきちんと把握し、主治医への確に伝えることが必要である。
例題	作業療法中止指示箋は、どのような場合にどのようにして指示されるか。
解答	作業療法中止指示箋は、患者様の病状悪化や身体的状態の悪化により作業を継続できない状態である場合、主治医に報告し作業療法中止指示箋を作成し確認して頂く。
68	作業療法長期欠席指示
解説	作業療法長期欠席は、他部門からの情報も踏まえ患者様の状態をきちんと把握し、作業療法継続が困難である事を評価したうえで、主治医への確に伝えることが必要である。
例題	作業療法長期欠席の指示は、どのような場合にどのようにして指示されるか。
解答	作業療法長期欠席は、患者様が病状不安定または身体症状の悪化により、作業療法を長期欠席する必要があると主治医から指示があった場合に適応される。
69	作業療法再指示(継続)
解説	作業療法導入時と現在の治療方針のずれをなくするために必要である。導入時に期間を把握し、常に更新していくようにしていく。
例題	作業療法再指示とはどういうことか。
解答	作業療法導入指示箋には指示期間があるが、その期間後に指示の継続か変更か再指示を主治医に確認すること。
70	病棟との検討
解説	他部門との治療方針のずれが生じないよう、作業療法での指示の変更があった際は、速やかにその内容と作業療法での目標の変更などを連絡する事が必要である。
問題	作業療法指示の変更がある場合、病棟への連絡や検討することは何か。
解答	作業療法中止・長期欠席の指示を伝え、患者様の誘導が円滑に行えるようにする。 また、作業療法再指示により、作業療法指示内容の変更がある場合、病棟と作業療法での目標や病棟での援助方針などの再確認が必要である。
71	対象者への伝達
解説	変更に対してのストレスが強く混乱を引き起こす可能性がある為、状態を見ながら本人が納得出来る様に説明していく事が必要である。
例題	対象者への伝達はどのように必要か。
解答	作業参加への変更がある場合、知らされないままであると混乱してしまうおそれがある為、変更を知らせておく必要がある。また、本人が納得できるように噛み砕いて説明する事が必要である。
72	関係書類の調整
解説	病棟のカルテに綴じてる為、支持の変更内容も含め記載する。 変更により、状態の変化が見られる事もある為、特記事項として経過を記しておく事が必要。 指示の変更により、速やかに作業目標の再検討を実施する。
例題	変更により記載が必要な書類は何か。
解答	作業療法実施状況一覧表 作業療法経過記録 作業療法治療目標

	第17分野 チーム医療	
73	対象者の情報提供と検討	
	解説	作業療法目標、患者様の作業状況、問題行動、スタッフの援助方法等を関連付けて具体的に情報提供していく必要がある。また、偏った評価をしない為にも他部門からのアドバイス等も取り入れ検討していく事がチーム医療の一環として必要である。
	例題	チームカンファレンスにおいて、作業からは何を伝え検討するのか。
	解答	作業療法目標、患者様の作業状況、問題行動、スタッフの援助方法等を具体的に情報提供し、他部門からの情報やアドバイスも含め、今後の方針について検討していく。

	第18分野 作業療法業務日誌	
74	作業療法業務日誌作成	
	解説	業務日誌は、回覧にて他部門への情報提供の1つとして利用している。その為、内容は明確かつ簡潔に記載する必要がある。状態報告に関しても、今後の方針を踏まえた記載が必要となる。
	例題	作業療法業務日誌を作成する上での留意点は何か。
	解答	スタッフの配置や作業種目、作業療法実施者数を明確にする。また、患者様の状態報告は経過のみではなく、作業療法での目標や今後のアプローチも踏まえて記載する。
75	作業療法業務日誌回覧	
	解説	その日の業務記録であり、伝達事項も含まれている事から、速やかに回覧する。
	例題	作業療法業務日誌は、いつ、どこに回覧すればよいか。
	解答	当日中もしくは明日中に、院長・各課長・医事課・診療課・各病棟へ回覧する。
76	作業療法業務日誌確認	
	解説	その部門の主任に報告・連絡・相談を行った上で、庶務管理課長、院長の順番で確認をして頂く。
	例題	作業療法業務日誌作成後、送信前に誰に確認してもらえばよいか。
	解答	作業療法部門 主任 庶務管理課長 院長
77	作業療法業務日誌管理	
	解説	他部門も情報を共有する為に、作業療法のフォルダー内に分かり易く保存しておく。
	例題	作業療法業務日誌は、どのように管理するか。
	解答	ネットワーク内の作業療法のフォルダーにて管理する。

第19分野 作業療法業務チャート		
78	作業療法実施チャート作成	
	解説	作業療法実施チャートは、診療報酬請求に関わるため、作業療法士1人当たり、当院では最大50名まで(当院では作業療法士2名が実施している為最大100名まで請求できる。)診療報酬を請求できる事を把握しておく必要がある。また、作業療法士が1名不在の場合などは、最大1日に50名までとなることを把握しておく。
	例題	作業療法実施チャートを作成する際の留意点は何か。
	解答	作業療法士1人あたり1単位25人までの診療報酬請求限度に留意する。(当院では、作業療法士2名の為、1日最大100名まで請求できる。)途中退席者の有無により、請求人数が異なる為明確にする必要がある。作業療法士が欠席した際、1日に50名までの請求となる。
79	作業療法実施チャート送信	
	解説	診療報酬請求が関わってくる為、速やかに作成し当日、若しくは翌日に送信する。
	例題	作業療法実施チャートは、いつ、どこに送信すればよいか。
	解答	当日中、もしくは翌日の朝に医事課にメールにて送信する。
80	作業療法実施チャート確認	
	解説	その部門の主任に報告・連絡・相談を行った上で、庶務管理課長、院長の順番で確認を
	例題	作業療法業務日誌作成後、送信前に誰に確認してもらえばよいか。
	解答	作業療法部門 主任 庶務管理課長 院長
81	作業療法実施チャート管理	
	解説	他部門も情報を共有する為に、作業療法のフォルダー内に分かり易く保存しておく。
	例題	作業療法実施チャートは、どのように管理しますか。
	解答	ネットワーク内の作業療法のフォルダーにて管理する。

	第20分野 作業療法月報	
82	作業療法月報作成	
	解説	月報とは、その月の報告であり、作業療法実施日数、作業参加者数、男女別利用者数等、利用状況を数値で示し先月と比較したものである。
	例題	作業療法月報はいつ作成しますか。
	解答	毎日、その日の作業療法実施状況について数値を記録し、月末には完成させる。
83	作業療法月報回覧	
	解説	その月の報告となるため、月末に速やかに提出する。
	例題	作業療法月報は、いつ、どこに回覧をしますか。
	解答	月末に、庶務管理課と院長へ回覧する。
84	作業療法月報確認	
	解説	その部門の主任に報告・連絡・相談を行った上で、庶務管理課長、院長の順番で確認をして頂く。
	例題	作業療法月報を作成後、回覧前に誰に確認をしてもらえばよいか。
	解答	作業療法部門 主任
85	作業療法月報管理	
	解説	他部門も情報を共有する為、作業療法のフォルダー内に分かり易く保存しておく。
	例題	回覧後の作業療法月報はどのように管理しますか。
	解答	ネットワーク内の作業療法のフォルダーにて管理する。

	第21分野 作業種目一覧表	
86	作業種目一覧表作成	
	解説	現在、使われていません。第24分野の作業療法実施状況一覧表に変わりました。
	例題	
	解答	

87	作業種目一覧表確認	
	解説	現在、使われていません。第24分野の作業療法実施状況一覧表に変わりました。
	例題	
	解答	

	第22分野 作業療法評価表	
88	作業療法評価表作成	
	解説	基本的に3ヶ月単位であるが、作業療法導入時期、状況に変化のみられた際、作業療法終了時期などにも行う。
	例題	作業療法評価表への記載はどの位の割合で行うか。
	解答	最低3ヶ月に一度どの割合で実施。また、病状の変化に伴って評価を実施する。
89	作業療法評価表管理	
	解説	決められたファイルに綴じる事で、速やかに確認が出来る様配慮する。作業療法終了者については、作業療法部門管理の評価表ファイルに綴じる。
	例題	作業療法評価表はどの様に管理をするか。
	解答	担当作業療法士が管理する作業療法指示箋・評価表ファイルに綴じる。

	第23分野 作業療法経過記録	
90	作業療法経過記録記載	
	解説	毎日の記録を元に評価を行い、作業療法の目標設定へと結び付けていく。その為にも、事実を客観的に捉え、誰が見てもわかりやすく記載することが必要である。
	例題	作業療法経過記録は何を記録するものか。
	解答	その日の作業療法参加状況について基準に沿って評価し、その日気付いた点について記す。
91	作業療法総括作成	
	解説	総括は、作業療法の1ヵ月のまとめである為、目標や治療方針も踏まえた総括を記載していくことが必要である。また、主治医や他部門への情報提供としても利用している為、簡潔かつ明確に記載する必要がある。
	例題	作業療法総括とは何を記録するものか。
	解答	作業療法の目標と経過に基づき、今後の方針を記載する。また、新たな問題点や改善点なども踏まえ、患者様の状況を明確に記載する。
92	作業療法経過記録決裁を受ける	
	解説	各担当主治医に、各患者様の作業療法での治療経過を伝え、必要に応じて指示を仰ぐ。
	例題	作業療法経過記録決裁はいつまでにもらえばよいか。
	解答	毎月9日までに提出
93	作業療法経過記録確認	
	解説	枚数が多い為、時に主治医からの確認印がないものが見られ、一通り再確認が必要。また、コメントが記載されている際は、今後の治療方針に取り込んでいく必要がある。
	例題	決裁を受けた後、確認をしなければならないものは何か。
	解答	主治医からの確認印とコメントの有無
94	作業療法経過記録管理	
	解説	綴じる位置が決められており、速やかに綴じるようにする。また、情報提供の手段でもある為、主治医から決裁を受けたあとは速やかに綴じる事が必要である。
	例題	確認を終えた作業療法経過記録はどのように管理するか。
	解答	各病棟にある患者様個人ファイルに綴じる。

	第24分野 作業療法実施状況一覧表	
95	作業療法実施状況一覧表入力	
	解説	作業療法実施状況一覧表は、患者様の作業療法での実施種目を他スタッフへ伝えるものであり、庶務管理課の管理にて月末までに入力が必要。
	例題	作業療法実施状況一覧表の入力はいつまでに行えばよいか。
	解答	月末から3日前までに入力

	第25分野 作業療法月間プログラム	
96	作業療法月間プログラム作成	
	解説	行事や季節に合わせた作品作りとなっており、協調性を要し患者様への負担もかかってくることから、念入りな作業分析と計画準備が必要となってくる。
	例題	共同作業プログラム立案時に考慮しなければならないことは何か。
	解答	「患者様の能力に応じた作業内容」「作成期間」「必要物品」「安全性」「チーム編成」
97	作業療法月間プログラム確認	
	解説	その部門の主任に報告・連絡・相談を行った上で、庶務管理課長、院長の順番で確認をして頂く。
	例題	作業療法月間プログラム作成後、誰に確認をしてもらえばよいか。
	解答	作業療法部門 主任
98	作業療法月間プログラム決裁を受ける	
	解説	その部門の主任に報告・連絡・相談を行った上で、庶務管理課長、院長の順番で確認をして頂く。
	例題	部門の主任より確認後、決裁はどのような経路で受ければよいか。
	解答	庶務管理課長に提出後、院長へ提出し、最終決裁を受ける。
99	作業療法月間プログラムに掲示印をもらう(庶務管理課より)	
	解説	院内に掲示するものは、掲示印がなければ掲示することができない。
	例題	決裁を受けた後、各病棟に配布する前に、庶務管理課より何をもらうか。
	解答	掲示印
100	作業療法月間プログラム配布	
	解説	各病棟に該当するプログラムを確認して前月中に配布する。
	例題	掲示印をもらった後、何をしなければならないか。
	解答	各病棟に1部ずつコピーし配布する。
101	作業療法月間プログラム管理	
	解説	月ごとに綴じ、必要な際に直ぐに参照できるように管理する。
	例題	作業療法月間プログラムをどのように管理しますか。
	解答	作業班管理のファイルに綴じる。

	第26分野 事故対策	
102	緊急時マニュアルの理解	
	解説	離院者の早急な発見と保護を優先とするが、状況により対応が異なることもあるので、上司からの指示を仰ぐことが必要。
	例題	作業療法開始前に離院が発生した場合、どのように対応しますか。
	解答	搜索への参加の有無と発見できなかった場合の作業療法実施の有無について上司へ確認し、指示を仰ぐ。
103	リスクマネジメントマニュアルの理解	
	解説	見つからないまま帰棟して頂くと、事件・事故発生の危険や搜索範囲の拡大につながる恐れがある為、必ず見つけてから帰棟して頂く。
	例題	作業療法終了時、針が1本見つかりません。その際、どのように対応しますか。
	解答	見つかるまで搜索する。場合によっては、患者様に了解を得てボディーチェックを行う。病棟に状況を伝え、帰棟が遅れることを連絡する。搜索してもみつからない場合は、上司へ報告し指示を仰ぐ。
104	m-SHEL分析	
	解説	事故発生時や危険を感じた際に行い、スタッフ間で分析内容の把握と統一した対応が行えるように努める。
	例題	m-SHEL分析を行う目的は何か。
	解答	起こってしまった事故や起こる危険性のあるものについて細かく検証分析し、事故の再発や未然に防ぐことへと繋げていく。
105	事故報告書作成	
	解説	状況により、先に上司への報告を要することもある。事故報告書は、的確にかつ速やかに提出する必要がある。また、上司のみではなく事故対策委員会への提出も忘れずに行う。
	例題	事故発生時、報告書作成手順を記しなさい。
	解答	事故発生時の担当者が、速やかに報告書を作成する。報告書を庶務管理課長と院長に提出し、事故内容について報告する。報告後、事故報告書を事故対策委員会に提出し、コピーしたものを作業班管理の事故報告書ファイルに綴じる。

	第27分野 緊急時の対応	
106	火災時の行動マニュアルの理解	
	解説	患者様に不安を与えぬよう、迅速に避難できる準備が必要。人員確認では、トイレ等に籠っている患者様がいないか、隅々の確認が必要。また、出火場所の確認後は速やかに連絡を行い、安全な避難口へ誘導する事が必要となる。
	例題	作業療法時、非常ベルがなった。その際、まず行わなければならないことは何か。
	解答	「出火場所の確認」「避難誘導の準備(人員確認)」
107	地震時の行動マニュアルの理解	
	解説	揺れがおさまるまで、机などの丈夫な物の下に身を潜め、安全を確保する。窓や棚などの危険な箇所へ近寄らせない。出入り口の確保も忘れずに行う。
	例題	作業療法時、地震が起き次第に揺れが強くなってきた。その際、まず行わなければならないことは何か。
	解答	「安全な所へ身を潜めさせる」「避難誘導の準備(人員確認)」
108	体調急変時の行動マニュアルの理解	
	解説	看護師からの援助を得られるまでは、経過観察(バイタル測定・時刻など)を行う。他の患者様が動揺しないように配慮する。
	例題	作業療法時、突然患者様が倒れ意識レベルの低下がみられた際、まず行わなければならないことは何か。
	解答	「看護師へ援助を要請する」「安全で安静を保てる場所への移動」

	第28分野 接遇技術	
109	接遇マニュアルの理解	
	解説	「ちょっとお待ち下さい。」ではなく、順番に必ずお伺いするという旨を伝え、安心して頂く必要がある。
	例題	作業療法時、患者様Aに対応中、患者様Bに呼ばれた。急を要する様子でないことがわかり、そこで患者様Bにどのように声かけを行えばよいか。
	解答	「～をしてから行きますのでお待ち下さい。」、「～分後に行きますのでお待ち下さい。」など

110	電話対応	
	解説	不調の訴えに対してチーム間で連携のとれた対応を行うことを示す必要がある。また、作業室内は多くの患者様があり、どこで誰に見られ聴かれているかわからない為、配慮が必要。
	例題	作業療法時、患者様Aから不調により病棟に戻りたいと訴えが聴かれ、電話にて病棟看護師に状況を伝えた。その際、配慮しなければならないことは何か。
	解答	訴えの内容と状況について、病棟へ連絡する旨を患者様Aに伝える。電話時はプライバシーに関わる内容である為、周囲の環境に注意を払う。